

# 入学者選抜試験問題

## 国語

実施 令和五年二月十日（金）（1回目）

### 注意事項

- 一 監督者の合図があるまで問題冊子を開かないでください。
- 二 解答用紙は問題冊子の間にはさんであります。
- 三 試験時間は五十分です。
- 四 解答は、全て解答用紙に記入してください。
- 五 問題冊子も回収しますので、受験番号・氏名を記入してください。
- 六 問題は 一 から 四 までで、一ページから八ページに印刷してあります。
- 七 答えに字数制限がある場合は、句読点や記号もそれぞれ一字と数えてください。

受験番号（ ） 氏名（ ）



□ 次の―線部の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直しなさい。

- ① 手綱を締める。
- ② 人生の岐路に立つ。
- ③ 神楽を奉納する。
- ④ 他の追隨を許さない。
- ⑤ 昇降機が停止する。
- ⑥ 倉庫にセジヨウする。
- ⑦ コウソク時間が長い。
- ⑧ ホクト七星を観察する。
- ⑨ 全力でシツソウする。
- ⑩ 海外にフニンする。

□ 次の問にそれぞれ答えなさい。

問一 次の文章の―線部A～Cの品詞として正しいものを、後の語群から選び記号で答えなさい。

彼はそのベンチに座って、しばらく休んでいた。

語群 ア 代名詞      イ 助動詞  
ウ 連体詞            エ 形容詞  
オ 副詞

問二 次の文章の―線部の活用の種類として正しいものを、後から選び記号で答えなさい。

相手の要求を受け入れる。

語群 ア ラ行変格活用  
イ ラ行下一段活用  
ウ カ行上一段活用  
エ カ行五段活用

問三 「人生の幸・不幸は予測できない」という意味のことわざを、次の中から選び記号で答えなさい。

ア 井の中の蛙大海を知らず  
イ 鳥の行水  
ウ 虎の威を借る狐  
エ 塞翁が馬

問四 「依存」の対義語を漢字で答えなさい。

問五 「国有」のように、前の漢字と後の漢字が主語述語の関係にある熟語を、次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 騒音  
イ 自他  
ウ 波及  
エ 創業

問六 「来る」を謙讓語に直しなさい。

問七 紫式部の作と言われる平安時代に成立した物語名を、漢字で書きなさい。

問八 『赤光』などの歌集を発表し、短歌結社誌「アララギ」の中心人物としても知られる歌人の名前を、次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 斎藤茂吉  
イ 紀貫之  
ウ 寺山修司  
エ 芥川龍之介

③ 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

《あらすじ》

私は七歳になった年に、初めて外国人である日本人を目にしたことを思い出していた。日本人たちは昆虫を専門にする研究者だった。私の祖母は、彼らの「ラジオを聴かせて欲しい」という願いに応じ、食卓の中心にラジオを出した。

「こんなおんぼろで、役に立つかどうか……」

ラジオの操作に慣れていない祖母は、少し不安そうだった。

「もちろん大助かりです。よろしければ私がチャンネルを合わせましょう」

助手の一人、苔色のベストが自分の持ち物を扱うような器用さでつまみを回し、アンテナを調節すると、やがてひどい雑音の向こうから、お目当ての番組が流れてきた。

「よし、いいぞ」

「おお、これだ、これだ」

「講演が始まるまで、あと二十分くらいはあるな」

彼らはA様にはBほつとした表情を浮かべた。いつの間にか妹は泣き止み、それでも祖母の背中にしがみついたままそこから離れようとしなかった。祖母はCコーヒを淹れ、三人に振舞った。

「ねえ、森で何をしているの？」

彼らが一口コーヒをすするので見届けてから、私は質問した。

「アリの観察だよ」

先生が答えた。優しい口調だったので私はD安堵した。ラジオが聴けるとはつきりした途端、態度が豹変したらどうしよう、もしかしたら日本人は子供が嫌いかもしれないぞ、と警戒していたからだ。

「そう、ハキリアリだ。知っているかい？」

ほくろの助手が言った。私はうなずいた。

「そのへんのジャングルにいくらでもいますよ」

そんなありふれた虫を観察して何になるんですか、とても言いたげに、祖母はコーヒースプーンで窓の向こうを指した。

「はい、おっしゃるとおり沢山います。しかし沢山いるからといって、ないがしろにしているというわけではありません」

「とても賢明なアリです」

「そのうえ愛らしい」

三人はロ々にハキリアリについて語りだした。彼らの顎がどんなに器用に葉を切り取るか、その一片一片をどれほどの根気強さで巣まで運ぶか、巣で葉っぱを更に細かくして培地を作り、キノコを栽培し、それを食糧にするという方法がいかに理的であるか、集団の中で与えられた役割に徹する彼らの忠実さが、いかばかりのものであるか。三人の話は尽きなかった。先生も助手も関係なく、ハキリアリの自慢なら是非とも自分が、といった様子だった。私たちはただ黙って聞くしかなかった。祖母は時折、合いの手を入れつつ、三つのカップにコーヒのお代わりを注いだ。

「葉っぱの切れ端を持って行進するハキリアリの群れを、君も見たことがあるだろう？」

先生が私の方に真っ直ぐ顔を向けて言った。

「うん」

メガネの奥にある黒い瞳を見つめ、私は大きくうなずいた。

「頭と顎を使って、自分の体より大きい葉っぱを高く掲げる。まるで天に供える捧げ物運ぶ勇者のようじゃないか。標識も地図もないうのに、何千何万というアリたちが、迷うことなく巣を目指して歩いてゆく。ジャングルの地面に、一筋連なる彼らの行列を目にするたび、いつもはつと息を飲むよ。赤茶けた土の上を小さな緑がチラチラ、チラチラと流れてゆくんだ。一つ一つの切れ端は皆形が違うのに、見事に統制が取れて、切れ目のない一続きになっている。ジャングルを静かに流れる、緑の小川だ」

私にとってハキリアリはただのハキリアリでしかなかった。しか

し先生の言葉を聞いたあとでは、それは勇者であり賢者であった。  
「もつと驚くのはね、行進の途中で雨が降ってきた時だ。彼らは濡れた葉っぱを惜しげもなく捨てる」  
「どうして？」

思わず私は尋ねた。

「濡れた葉っぱは、腐って巢を台無しにしてしまうからだよ。手間ひまをかけて、苦勞して運んできて、もうすぐそこが巢、というところまで来ているのに、彼らはちっとも文句を言わないんだ。ふて腐れるのもいなければ、ズルをするのもいない。スコールが通り過ぎるのを待って、また最初からやり直す。ただひたすら、黙々とね」  
祖母は「ほお」と声を漏らし、弟は視線がぶつからないよう注意しながら三人の顔を順番に見やり、妹は鼻水を祖母の背中にこすりつけた。ラジオではお昼のニュースが終わろうとしていた。開け放した窓の向こう、空と川の隙間に細長く広がる森が見えた。

先生の端正な言葉遣いと、たどたどしいイントネーションは、その喋り方自体がハキリアリの行列を象徴しているようだった。健気で一生懸命で辛抱強かった。私はハキリアリの姿を思い浮かべた。琥珀色をした、何の変哲もないただのアリが隠し持っている力について、思いを巡らせた。森の奥でひっそりと発揮されているに過ぎないその力を、見守っている人間のことを考えた。

「ハキリアリは I ね」  
と、私は言った。

「おじさんたちに観察してもらえて。もしおじさんたちがいなかったら、誰もハキリアリの賢さを褒めてあげられないもの」

三人は笑った。先生は私と弟の頭を撫でた。弟はびくつきとして目をつぶり、首をすくめた。そんな私たちの姿を、涙のたまった目で、指をしゃぶりながら妹が見ていた。

「もうそろそろじゃないでしょうか」

ほくろの助手が言った。苔色の助手がボリュウムを上げ、もう一度アンテナを調整し直した。

「あつ、聞こえがよくなった」

「さあ、いよいよだ」

私たちは皆一緒に身を乗り出し、ラジオに耳を寄せた。食卓のラジオは普段よりなぜか小さく見えた。急に大勢の人間から注目を浴び、恥ずかしがっているかのようだった。

(小川洋子『人質の朗読会』中央公論新社より)

注1 安堵 安心すること。

注2 培地 細胞や微生物が成長しやすいように作られた環境のこと。

注3 統制 多くの物事を一つにまとめておさめること。

注4 端正 姿・形や動作などが正しくきちんとしている様子。

注5 変哲 変わっていること。

問一 |線部A・C・E・G「彼ら」の中で、指示された内容が違  
うものを一つ選び記号で答えなさい。

問二 |線部B「一様に」の意味として適当なものを、次の中から  
一つ選び記号で答えなさい。

- ア うって変わって
- イ 同じように
- ウ 一生懸命に
- エ それぞれに

問三 |線部D「葉っぱの切れ端を持って行進するハキリアリの群  
れ」とあるが、同じ内容の表現を本文中より四字で探し、抜  
き出して答えなさい。

問四 |線部F「先生の言葉を聞いたあとでは、それは勇者であり  
賢者であった」とあるが、先生の言葉を聞く前、私にとって  
ハキリアリはどういう存在だったのか。本文中の言葉を用い、  
十字以上十五字以内の一文で答えなさい。

問五 |線部H「先生の端正な言葉遣いと、たどたどしいイントネ  
ーション」とあるが、私はそれらをどのように感じたのか。  
本文中より十四字で探し、初めと終わりの三字をそれぞれ抜  
き出して答えなさい。

問六 |I に当てはまる言葉を、次の中から一つ選び記号で答  
えなさい。

- ア ついてない
- イ かわいそうだ
- ウ ラッキーだ
- エ ポジティブだ

問七 |線部J「恥ずかしがっているかのよう」に用いられている  
表現技法を、次の中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 換喩法
- イ 擬声語
- ウ 擬人法
- エ 擬態語

四 次の文章を読み、後の問に答えなさい。

さつき、このゲームでは、貧民も努力しだいでお金持ちになれるという点で、昔の王様のいる社会とは違おうと言いました。それは近代社会の大事な特質です。昔の社会をゲームにすれば、ゲームは階層別に別れるでしょう。上位の王侯では権力闘争のゲームがある。下のほうにゆくほど、流動性<sup>注2</sup>がなく、身分が固定<sup>A</sup>してくる。社会的に上昇するのはますます困難になる。なぜそういう違いがあるのか。

このことは、近代社会の基本の仕組みにかかわっていて、社会科でまず考えなくてはならない大事な点です。

王侯が支配する社会と近代社会の大きな違いは何でしょうか。一般的には、近代社会とくに民主主義の社会では、人間は「生まれつき自由で平等」だからそこで自由や平等が認められているのだ、と言われます。しかし哲学的には、この理解は大事な点を見落として

いる。  
B われわれ一人一人が自由で平等だということを、誰が認めているのでしょうか。神様？ それとも、政府？ どちらでもない。また誰か特別な人がそれを認めているのではない。重要なのは、近代社会では、人々が他人の自由と平等を、お互いに認め合っている、ということ、つまり「自由」を相互に承認している、ということです。これは社会をゲームだと考えたととてもよく分かります。いま何人かの人がみなでゲームをはじめようとします。するといくつかのことははじめの前提として認めあう必要がある。みなの場合でルールを決めること、みなが平等にルールに従うこと、ルールに従わないとゲームが成立しないので、違反したときには罰を科すことがあること、等々です。

C こう考えると、近代社会以前の社会はどんな社会だったのかということも見えてくる。それはひとことと言って、<sup>注3</sup>「普遍闘争」の

社会、そして「普遍支配」の社会です。ホッブズという哲学者はそれを「万人の万人に対する戦争」と呼びました。

中国や日本の戦国時代を思い出してください。ある一定の地域に、強力な権力が打ちたてられないと、そこは戦乱状態になってしまいます。戦国大名や三国志の時代です。その結果はどうなるか。あちこちで戦いがあり、弱い者は打ち負かされ、だんだん少数の強者が生き残り、最後の決戦<sup>注5</sup>があつて、<sup>注4</sup>覇者がまきます。それが徳川家康<sup>注5</sup>だったり、秦の始皇帝<sup>注5</sup>だったりするわけです。

いたるところで戦争が続き、最後の覇者が決まると、ようやくその国の戦乱が収まって統治がなり立ち、秩序が定まります。世の中は平和になる。D 大きな問題がある。ここでは、秩序は、最後の勝利者の圧倒的な武力（実力）で支えられている。つまり、支配階級と被支配階級が力ずくで固定され、そのことで秩序が作り上げられているのです。

要するに、近代以前の社会の根本のしくみは、はじめに「ケンカ」がある。勝負がついたら、一番強いものが、すべてのルールを決め、全員がそれに従う。つまり「実力の絶対支配の社会」です。<sup>注7</sup>ヘラクレスという人は、「戦いだけが世の中の秩序を決めることができる」と言いましたが、その通りです。そしてもっと驚くべきことがある。

E じつは人間社会が、農耕や定住によって、食料のストックをもてるようになったのは、約一万年前です（諸説あり）。それまではその日暮らしです。そして、戦争状態は、それ以前にはほとんどなかった。<sup>注6</sup>ルソーも、財の蓄積のないところでは、戦争の理由がないはずだ、と言っている。

つまり、約一万年前に財の蓄積が可能になっていらい、人間社会は、つねに実力の闘争を延々続けてきた。われわれがよく知っているF 戦争国家は、蒙古、アッシリア、ペルシャ帝国などです。いったん大きくなったら、<sup>注10</sup>とにかく辺りの国を全部攻め滅ぼし、隷属させ、完全に支配する。テリトリー<sup>注10</sup>のうちの回りの餌を手当りし



だいに食べ尽くす、ジャングルの中の虎と似ています。

ともあれ、重要なのは、人間社会は、つい二百年少しほど前に近代国家が成立するまで、この「実力支配の社会」しか存在しなかった、ということ。つまり、近代社会は、はじめて、「全員で作ったルールによる対等なゲーム」という仕組みとして、登場したのです。

だから、もう一度言う、近代社会のいちばん中心の原則は、だれもが自由で平等であることを誰かが（神や、政府や、その他が）認めている、というのではなく、社会の成員がそれを「相互承認」する意志をもつ、という仕組みにあるということです。哲学ではこれを「自由の相互承認」と言います。

このことがよく理解できると、まさしくこの大原則から、近代社会のいろんな派生的な原則が現われていることがよくわかります。

（竹田青嗣『社会学入門 中学生からの哲学「超」入門

自分の意志を持つということ』筑摩書房より）

注1 王侯 王と諸侯。土地・人民を支配する有力者。

注2 流動性 固定されず変化する性質。

注3 普遍 例外なく全てのものにあてはまること。

注4 覇者 武力や権力で天下を治めるもの。

注5 秦の始皇帝 史上初めて「秦」王国として中国全土を

統一した皇帝。

注6 被支配 支配されること。

注7 ヘラクレイトス 古代ギリシアの哲学者。

注8 ルソー フランスの哲学者。

注9 隷属 つき従うこと。

注10 テリトリー なわばり。

注11 派生 あるものから別のものが枝分かれして生ずること。

問一 | 線部A「そういう違い」とあるが、どういう違いか。説明した次の文章の( )を、三十五字以上四十字以内で本文中の言葉を用いて埋め、説明を完成させなさい。「昔の王様がいる社会」「近代社会」を用いること。

( ) 貧民が社会的に上昇するのは困難である、という違い。

問二 | 線部B「われわれ一人一人が自由で平等だということを、誰が認めているのでしょうか」とあるが、誰がどのように認め合っているのか。説明した次の文章の( I )・( II )を、本文中から抜き出して埋め、説明を完成させなさい。

( I ) は五字、( II ) は十一字とする。

問三 | **C** には次の四つの文章が入る。入る順番を記号で答えなさい。

ア この原則を守らない人がいると、もうゲームは成り立たないのです。

イ つまりルールのもとプレイヤーの平等(対等)ということが前提で、これが守られなければ、ゲーム自体が成り立たない。

ウ そんなことをそれほど意識はしていないけれど、ゲームをするときには、そういう原則が必ず成立している。

エ だから各人がこの原則を守ろうという意志をもつ。

問四 | **D** に当てはまる言葉を、次の中から選び記号で答えなさい。

ア つまり  
イ もちろん  
ウ しかし  
エ すると

問五 | 線部E「ストック」とあるが、同じ内容の表現を本文中より二字で探し、抜き出して答えなさい。

問六 | **F** に当てはまるものとして適当なものを、次の中から選び記号で答えなさい。

ア 典型的  
イ 近代的  
ウ 古典的  
エ 哲学的